

三重県
移住
ガイド

さんじゃうまるだね!
三重!

MIE



■発行

令和2年1月発行



■お問い合わせ先

三重県 地域連携部 地域支援課

TEL.059-224-2420 FAX.059-224-2219

E-mail chiiki@pref.mie.lg.jp



三重県移住・交流ポータルサイト



目次

知って ○ 三重県ってこんなところ

03

知って



行って ○

三重へのアクセス
北勢エリア
伊賀エリア
中勢エリア
伊勢志摩エリア
東紀州エリア

04

行って



住んで ○

私たちの「さんじゅうまる」
移住者①(四日市市・岡本さん)
移住者②(伊賀市・高橋さん)
移住者③(松阪市・濱畑さん)
移住者④(志摩市・伊藤さん)
移住者⑤(尾鷲市・豊田さん)

11

住んで

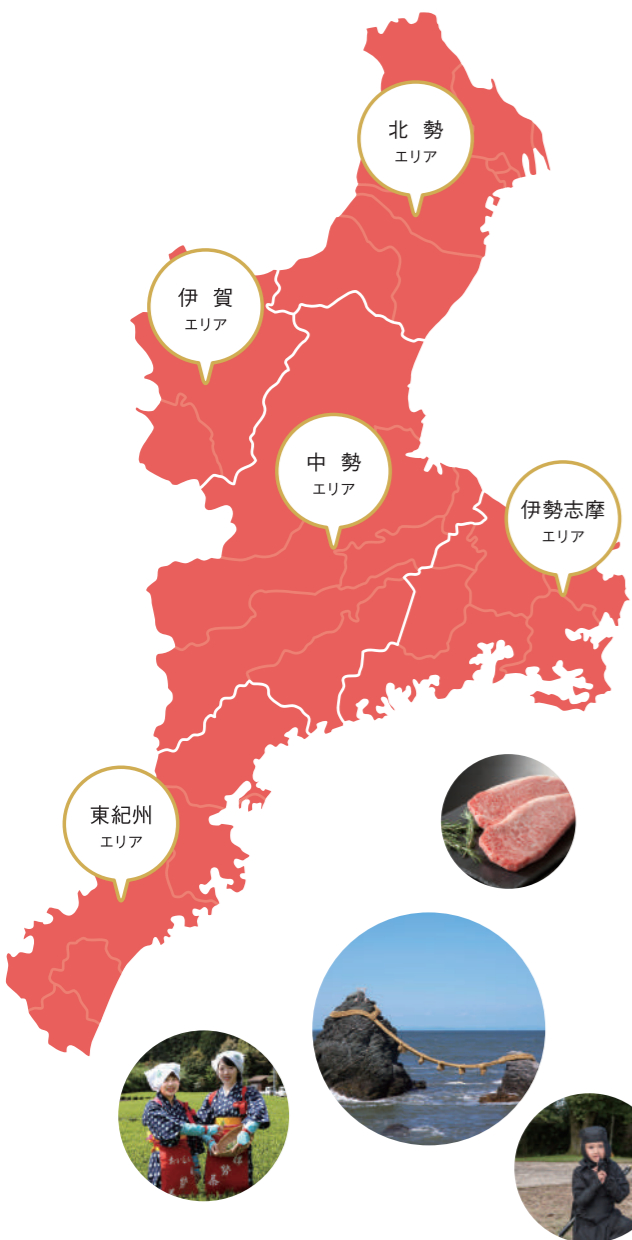


三重で暮らす
三重で働く
暮らし体験 ↓ 下見のススメ
移住までのSTEP9
市町相談窓口・三重暮らし応援制度一覧
移住相談窓口

22

日本のほぼ真ん中に位置する三重県は、南北に細長く、5つに分けられる地域それぞれに豊かな自然、豊かな食べ物、豊かな文化が溢れています。名古屋や大阪へのアクセスが良好な都市がある一方、海や山、川など自然豊かな地域もあり、ライフスタイルに合わせた暮らしができます。知れば知るほど、いいところ〓〓が増えていくことでしょう。

知って 〓〓 三重県ってこんなところ



三重県の広さ

面積	5,774 km ²	東西 約 80km	南北 約 170km
人口	180万7,611人		
海岸線	1,140 km		全国 7 位
自然公園面積	20万 1,896 ha		全国 4 位
<small>(県土の約35%)</small>			
<small>人口:平成28年10月1日現在 其他:平成28年3月31日現在</small>			

三重県の気候

年間平均気温	津市 16.9℃	東京都 16.4℃
年間日照時間	2,144 時間	全国 4 位
年間快晴日数	34 日	全国 6 位

平成28年

知って

行って

住んで

知って (ま)

行って (ま)

住んで (ま)

知って (ま)

行って (ま)

住んで (ま)

凡例

- 主な国道、県道
- 自動車専用道路(無料)
- 高速道路
- 近鉄
- 私鉄
- 新幹線
- JR

津市から京都市まで

道路	101km	1時間 30分
鉄道	142km	1時間 50分

津市から名古屋市まで

道路	70km	1時間
鉄道	65km	50分

津市から東京都区内まで

道路	425km	5時間 30分
鉄道	435km	2時間 30分

津市から中部国際空港まで

高速船	45分
-----	-----

津市から大阪市まで

道路	130km	2時間
鉄道	125km	1時間 30分

三重へのアクセス

行って 〇 にじゅうまる!!

都会暮らしも田舎暮らしも 三重県ならかないます

東海地方と近畿地方の境に位置する三重県。名古屋や京都、大阪などの都市圏からの距離が近く、鉄道や車でのアクセスがよいので、多くの観光客が毎年訪れています。南北に長い三重県では、さまざまな暮らしを可能にします。中京圏・関西圏へのアクセスが便利な北部では都市部に生活しながらも、自然と親しむ日々を実現できます。一方の南部は、2つの国立公園を有するなど自然がいっぱいです。多様な暮らしが可能な三重県で、さんじゅうまるの毎日をかえてみませんか？



四日市コンビナート



鈴鹿サーキット



伊勢神宮



英虞湾



七里御浜



関宿



伊賀上野城

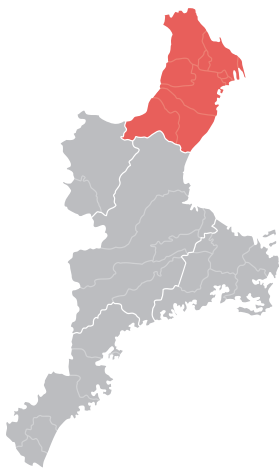
京都

行って 北勢エリア

にじゅうまる!!

中京圏へのアクセス良好 経済・産業の中心エリア

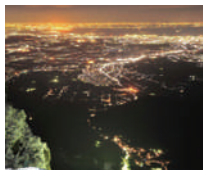
県北部に位置する北勢エリアは、高速道路や鉄道などが整備され、名古屋など中京圏へのアクセスが良いことから、人口の多い市町が集まっています。さらに、東海環状自動車道の全線開通に向けて工事が進められており、利便性のさらなる向上が期待されています。製造業などが盛んで経済的に活発でありながら、旧東海道沿いには、古い町並みも残り、当時をしのばせる風情があります。市街地から足を延ばせば、自然豊かなエリアが広がり、都市暮らしと田舎暮らしの両立が可能な地域です。



▲北勢線と藤原岳(いなべ市)



▲住宅地の風景(桑名市)



▲御在所岳からの夜景(菰野町)



▲東員町中部公園(東員町)



▲関宿祇園夏まつり(亀山市)



▲中心市街地(四日市市)



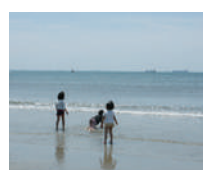
▲鈴鹿サーキット8耐(鈴鹿市)



▲町民参加の体育祭(木曾岬町)



▲八王子祭り(朝日町)



▲高松海岸(川越町)

行って にじゅうまる!!

伊賀エリア

関西圏への通勤者も
歴史と自然に包まれて

特急を使えば、大阪市街地まではわずか1時間足らずとアクセス良好。関西圏へ通勤・通学する人も多く、ベッドタウンとしても知られています。自動車専用道路である名阪国道（国道25号）が東西に走り、新名神高速道路が付近を通ることから、交通の便に優れ、製造業などの企業が多く進出。このエリアには、忍術の流派「伊賀流」が伝わり、ゆかりの寺社をはじめ、当時の面影を今に伝える博物館や屋敷が残ります。また、盆地地形を利用した米や酒づくりが盛んです。



▲伊賀盆地(伊賀市)



▲子ども忍者(伊賀市)



▲田植え体験(名張市)



▲上野天神祭(伊賀市)



▲町並み(名張市)



▲赤目四十八滝(名張市)

知って

(まる)

行って

(じゅうまる)

住んで

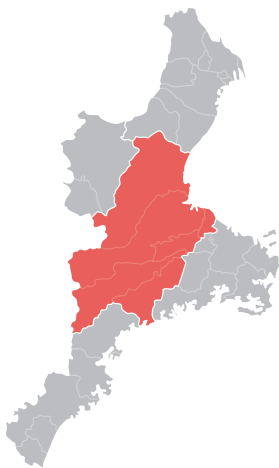
(みえ)

行って にじゅうまる!!

中勢エリア

行政の中心エリア 都市暮らしで自然も満喫!

人口約28万人の県都・津市がある行政の中心地。高速道路や電車などの交通網も整備され、名古屋や関西エリアへのアクセスも便利です。一方、中山間部では清流や渓谷が美しい景観を織り成し、自然の恵みを生かした農業や林業、畜産業が盛んです。天皇に代わって伊勢神宮に仕えた斎王の宮・斎宮跡があるほか、日本三大商人である伊勢商人を輩出するなど、歴史が根づく中勢エリア。さらに、ユニescoエコパークがあるなど自然も豊かで、さらなる地域活性化や観光振興に期待が高まっています。



▲中心市街地(津市)



▲林業に従事する人たち(松阪市)



▲大杉谷溪谷(大台町)



▲斎王まつり(明和町)



▲大紀町阿曾地区の風景(大紀町)



▲「おばあちゃんの店」(多気町)

知って

(まる)

行って

(こ) (あ) (ま) (み)

住んで

(み)



▲農業も盛ん(玉城町)



▲おかげ横丁(伊勢市)



▲SUPをする子どもたち(度会町)



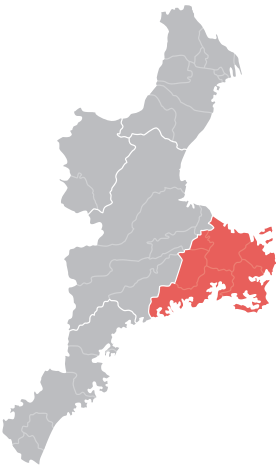
▲漁港と移動販売車(南伊勢町)



▲サーフィン(志摩市)



▲親子でワカメ漁(鳥羽市)



行って伊勢志摩エリア

にじゅうまる!!

歴史と自然あふれる
著名スポット多数

日本人の心のふるさととして
崇敬を集める伊勢神宮をはじめ、リアス海岸が織り成す景観を楽しめる伊勢志摩国立公園など、県有数の観光スポットが集まるエリア。2016年には、先進国首脳会議(サミット)が開催されました。古くは「御食国(みけつくに)」と呼ばれていた歴史を持つなど豊富な海の幸に恵まれ、漁業や水産業、農業などが盛ん。独自の文化を育んできたことでも知られ、「鳥羽・志摩の海女漁の技術」は、国の重要無形民俗文化財に指定されています。

知って
（め）

行って
（て）

住んで
（みえ）



▲ハラソ祭り(尾鷲市)



▲枝打ちをする人(尾鷲市)



▲海岸沿いの集落(熊野市)



▲木本まつり(熊野市)



▲魚さばき(紀北町)



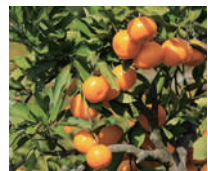
▲透明度の高い銚子川(紀北町)



▲元気な子どもたち(紀宝町)



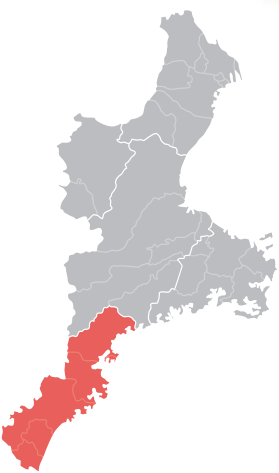
▲熊野古道(横垣峠)と紀州犬(御浜町)



▲みかん畑(御浜町)



▲自然豊かなまち(紀宝町)

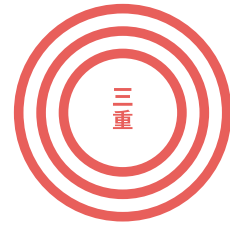


熊野灘に面した県最南部では、漁業はもちろん、温暖な気候を生かしたミカン栽培が盛ん。ミカンは年間を通じて栽培され、その種類は、数十にも及びます。さらに、国内有数の多雨地域であることから、古くから林業や木材業も営まれ、「尾鷲ヒノキ林業」は、日本農業遺産に認定されています。山と海に囲まれ、食や祭り、民俗など独自の郷土文化が根づく東紀州エリア。人情味ある豊かなコミュニティが形成され、のんびりとした理想の田舎暮らしをかなえてくれます。

行って 東紀州エリア にじゅうまる!!

自然に囲まれた
人情味ある温かなまち

住んで



5組の先輩移住者に聞いた 私たちの「さんじゅうまる」

移住者インタビュー

近年、増加傾向にある三重県への移住者。

「家族の将来を見据えて」

「大自然に魅せられて」など

その理由は、さまざまです。

さんじゅうまるの暮らしをかなえた

先輩移住者の日々をご紹介します。

（移住者インタビューの内容は平成30年10月時点）



北勢
エリア

P.12 岡本さん



伊賀
エリア

P.14 高橋さん



中勢
エリア

P.16 濱畑さん



伊勢志摩
エリア

P.18 伊藤さん



東紀州
エリア

P.20 豊田さん

知って

（まる）

行って

（さんじゅうまる）

住んで

（みえ）

住んで

移住者インタビュー ①

おいしい食材と自然、温かな人に囲まれて 四日市でかなえた理想の子育て

Profile



北勢エリア
岡本英志さん(37)、亜希さん(36)、いちちゃん(3)

英志さんが出身地・三重県で飲食店を開業するのを機に2013年、四日市市へ移住。亜希さんは、店舗運営、デザイナー、子育ての三足のわらじを履いています

夫の夢を支えたいと 三重への移住を決意

「伊勢神宮と鈴鹿サーキットは知っていたけれど、移住前は三重がどこにあるのかも定かではありませんでした」と笑うのは、移住5年目の岡本亜希さん。夫・英志さんがオーナー&シェフを務める「wine & kitchen velo」のオープンを機に、四日市市にやってきました。現在は子育てをしながら、店舗運営をサポートするほか、本職のデザイン業に大忙しの日々を送ります。

亜希さんは、埼玉県出身。大学卒業後は都内にある電機メーカーで働き、インダストリアルデザイナーとして、機械製品の設計に携わっていました。2013年、鈴鹿市出身の英志さんと結婚。「三重県で飲食店を開きたい」という英志さんの夢をかなえるべく、亜希さんは移住を決意しました。

御食国ならではの おいしい食材を提供

veloでは、フランスの田舎料理やワインを提供しています。「メニューには、新鮮な朝どり野菜をはじめ、菰錦豚やさくらポークなど、三重ならではの食材を使用しています」と英志さん。料理ごとに異なる県産肉を使い分けるなど、素材の味を生かしています。亜希さんも、三重県の食材が大のお気に入り。「凝った味つけをしなくても、素材の味だけで十分おいしい」と話します。

仕事に子育てに 大満足の三重暮らし

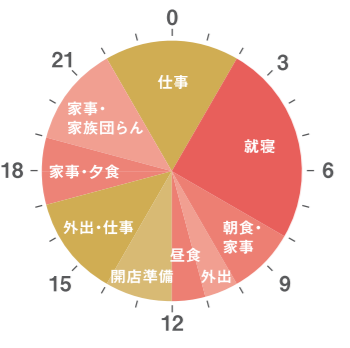
市内で月に1度開催されているマーケット「四日市の市」での出会いをきっかけに、四日市へ移り住んできた若い世代との交流も生まれ、地域活性に向けた活動も見据えています。



2	
3	1
4	

- 1 店舗の目の前にある諏訪公園は、岡本さん一家のお気に入りのスポット。空き時間には、園内にある四日市市立児童館や、カラフルな大型遊具で遊ぶといいます
- 2 のびのびとした環境での子育てを望んでいた亜希さんにとって、都市でありながら自然もある四日市は理想の地。いちちゃんが生まれてからは自炊するようになり、生活リズムも大きく変わりました
- 3 子育て、店舗運営、デザイン業と三足のわらじを履く亜希さん。デザイナーとして、ロゴや名刺、ショップカード制作を担うほか、WEBや映像なども手がけます
- 4 店の看板メニュー「自家製ソーセージ」。素材選びから、腸詰め、調理までの全工程を英志さんが担当。三重県産の豚肉を使用した一品は、ワインとの相性抜群

ある一日のスケジュール (亜希さん)



- 深夜まで働く英志さんが起床したら3人で昼食をとりながら家族団らんのひとときを過ごします
- 昼食後は自宅から店に移動。英志さんといちちゃんは買い出しへ、亜希さんは店で開店準備を進めます
- 子どもの就寝後が亜希さんのワークタイム。デザイン作業をするほか、ウェブサイトや本を見て感性を磨きます

MIE ここが「住んで三重」!

- 海、山、温泉がすぐそこに!
都内で子育てをする友人は、「公共交通機関でのベビーカー利用に不便さを感じ、出かけるのが億劫になることもある」といいます。三重での暮らしは、車を30分走らせれば、海や山、温泉に気軽に出かけられるのがいいですね! 近隣スポットでは、湯の山温泉や四日市市ふれあい牧場がお気に入りです。
- 水や食べ物などのおいさに感動!
とにかく、水も食べ物もおいしい。水との相性が良いのか、肌荒れも改善したように思います。おいしい野菜が安価で手に入るのも、うれしいポイント。素材そのものの味が良いので、味つけにも苦勞しません。veloでは、契約農家さんから仕入れた朝どり野菜を提供しています。リゾートに使用する玄米は伊賀産です。

「大きな遊具のある公園が近所にたくさんあり、車で少し足を延ばせば、動物と触れ合える牧場もある。のびのびと子どもを育てられる環境です」と三重暮らしを満喫しています。休みの日は、温泉などへ出かける岡本さん一家。「東京にいたときは、人混みを避けるため日中に出かけることは少なかったのですが、今は車を30分走らせれば、海も山も温泉だって、気軽に出かけられます。リフレッシュが上手にできるようになりました」と、日々の暮らしにも変化が現れているようです。

移住を機に、フリーランスのデザイナーへ転身。veloのロゴ制作や店舗デザインを皮切りに、近年は地元飲食店からロゴなどの制作依頼が増えたといいます。「現在は東京在住時から継続している案件と、四日市の仕事も半々の割合です。個人で活動するようになってクライアントとの距離が近くなり、細やかな提案が可能になりました」と微笑みます。今後は新たな取り組みにも挑戦したいと力を込め、「依頼者の希望に合わせたオリジナルグッズなどを手がけていきたいです」と夢を膨らませます。

住んで

移住者インタビュー ②

地域に溶け込み、伝統産業に携わる ゆったりと時が流れる古民家での暮らし



Profile



高橋健作さん(33)、由加里さん(29)

空き家バンク制度を活用し、2018年3月に伊賀市へ。健作さんは伝統産業である伊賀組紐の機械織に、由加里さんは内職で手組みに携わります。

家族の時間を優先 実家に近い伊賀へ

「休日の朝、縁側にソファアを置いて、コーヒーとトーストを楽しむ古民家カフェごっこがお気に入り」と話すのは、高橋健作さん・由加里さん夫婦。入り口の格子に一目ぼれた、旧伊賀街道沿いの古民家に住んで半年。床を張り替えたり、壁に漆喰を塗ったりと、自ら手を加えながら暮らしています。大学で出会った2人。健作さんの転勤を機に結婚しましたが、深夜まで働く日々を送ります。「将来子どもが生まれたとき、誇りを持って、自分の仕事のことを話せないのではと、葛藤していました」と健作さんは振り返ります。ゆとりある生活と将来の子育て環境を考え、田舎暮らしを決意。ともに名古屋出身のため、実家に帰りやすい地域を候補としまし

伝統の組紐が育む 伊賀への愛

健作さんは、物件探しと就職活動を同時進行。偶然紹介されたのが、糸伍株式会社の機械メンテナンスの仕事でした。エンジニアの経験はありませんでしたが、趣味のバイクで培った知識を生かして、技術を習得しています。「自分がセットした台から組紐ができあがる感動は想像以上。日本の伝統に携わっていることが実感でき、将来子どもにも誇れる仕事だと思います」と笑顔を見せます。由加里さんも一緒に工場を見学し、「組みあがっていく工程が面白い」と、手組みの職人に弟子入り。「いつか伝統工芸士になれたらいいな」と、由加里さんは微笑みます。敷地内の畑でも、ご近所の方が苗を植えてくれたり、手入れの方法を教えてくださいと、近隣からの温かい心づかいに包まれながら暮らしています。

「新入りの気持ち」が 地域に溶け込む鍵

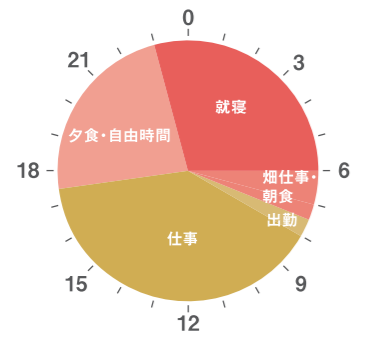
当初は高橋さん夫婦にも、見知らぬ土地に住むという不安がありました。しかし、引越しの際、元の家主と一緒にあさつ回りをしてくれたこともあって、ご近所づきあいは円満。穏やかな人柄で地域の人の親切心をまっすぐ受け入れる高橋さん夫婦のもとには、さまざまな「おすそ分け」が届きます。「勝手口から野菜やおかずを持ってきてくださるんです。1カ月野菜を買わないときもありまし

た」と、由加里さんは微笑みます。敷地内の畑でも、ご近所の方が苗を植えてくれたり、手入れの方法を教えてくださいと、近隣からの温かい心づかいに包まれながら暮らしています。地域に溶け込むためには、「住んであげるではなく、住まわせてもらう意識が大切。いまだに新入社員のような気持ちでいます」と健作さんは、アドバイスします。移住前は三重県に対して、伊勢神宮やコンビニナートといったイメージしかなかった2人。現在は、「自然も豊かで、面白い物にも困らない、便利で住みやすい地域」と、太鼓判を押します。伝統産業に携わったり、多くの人と積極的に関わったりしながら、充実した移住ライフを送っています。

2	
3	1
4	

- 2人の住まいは、空き家バンクの制度を利用して購入。母屋に離れ、蔵、畑もある広い敷地の古民家に住んでいます。DIYの知識は設計士として活躍する先輩移住者から教わりました
- 勤務先の社長も2人の子を持つ父親で、「子どもが生まれても大丈夫。家族だと思ってください」と歓迎してくれました。周りの人に支えられながら、昭和初期の貴重な機械を受継ぎ持っています
- 伊賀組紐は、多彩な色づかいが特徴。創業64年の糸伍株式会社は、染色から製造までを一貫する市内で有数の機械織の組紐製造会社です
- 自宅で組紐を組む由加里さん。「まだ見習いの見習い」といい、師匠から指導を受けながら糸を組んでいます。締めやすく、身につけても苦しくない、しなやかさを持つのが、手組みの魅力

ある一日のスケジュール (健作さん)



- 畑のある高橋さん宅
今は一部しか利用していませんが
今後は野菜づくりも本格的に始めたいと計画中
- 帰宅が早く、規則正しい生活となり
体重が半年で20kg減少した健作さん
大学時代のスタイルを取り戻しました
- 由加里さんは、午前中にパート、午後から組紐
2日で1本のペースで糸を組んでいます
仕事の後は、2人でゆったり過ごします

MIE ここが「住んで三重」!

- 自然と利便性を兼ね備えた、ほどよい田舎
8月の猛暑日でも夜は肌寒いほど。盆地特有の寒暖差が激しい地域だから、野菜や米がおいしい! 自然もありながら、商業施設もあり、名阪国道のインターにも近い。伊賀市からは、小一時間で大阪、京都、奈良、津、名古屋など、いろんなところに行けます。お盆や大型連休の東名阪の渋滞には驚きますが(笑)
- 面白くて、親切な人が多い!
半年に1回、市が主催する移住者交流会に参加して、先輩から便利な制度や、DIYの知識を教えてもらったり、相談に乗ってもらったりしています。その後、家に遊びに行くこともありますが、面白い人が多く、もっとたくさんの人と交流したいと思っています。移住前より人づきあいが活発になりました。

住んで

移住者インタビュー ③

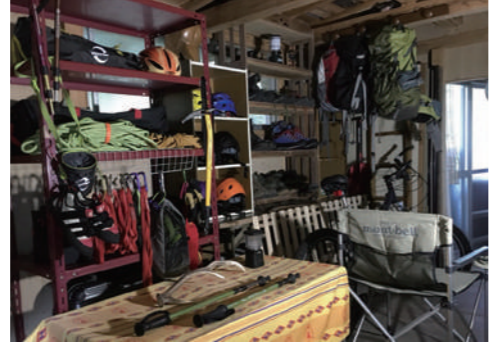
豊かなライフスタイルを実現した田舎暮らし 自然に囲まれた自慢の我が家で日々を満喫

空き家を自ら改築 自然を楽しむ毎日を



濱畑啓之さん (55)

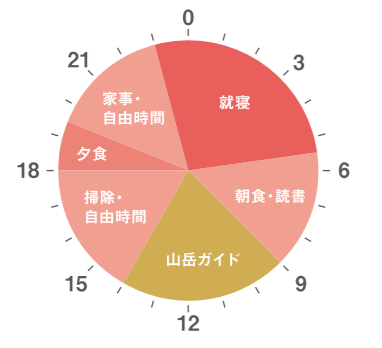
ツーリングで立ち寄った松阪市柚原町に魅了され、2012年に移住。現在は鈴鹿市のホンダディーラーで働くかわら、伊勢山上のガイドも務めます



2	
3	1
4	

- 1 緑側に座り、コーヒーを飲みながら読書したり音楽を聴いたりするのがお気に入り。家が密集していないので、好きな音楽を大音量で聴いても、クレームが来ないのが魅力と笑います
- 2 趣味が高じて、伊勢山上のガイドに。高さ約20メートルの岩場や、鎖場が連続する約2時間の修験道を歩きます。「お客様の楽しんでいる姿がやりがいです」
- 3 コースのところどころにある石仏に手を合わせて、歩を進めます。伊勢山上の歴史を語りながら道案内をします。参加者の安全を第一に、足場の悪い岩場は特に注意を呼びかけます
- 4 クライミングの装備などがずらりと並び「趣味の間」。靴やロープ、ヘルメットのほか、雪山に登る際に使用するピッケル、マウンテンバイクなどが保管されています

ある一日のスケジュール



- 目覚めは町内に鳴るサイレン
読書などをしながら
朝のひとときをゆったりと過ごします
- 月に数回はガイドの仕事で伊勢山上へ
9時から山に入り、帰宅は14時頃
ガイドのない休日は県内外の山や海へ
- 食事は自炊が基本。地産地消を心がけ
調味料も、地元産を使用しています
庭で鳥焼きをつくることも

MIE ここが「住んで三重」!

- 食べ物がおいしい
都会に暮らしていた頃はお酒を飲んだり外食をしたりで腎臓を悪くしましたが、こっちに来てからはほぼ自炊ですっきり健康になりました。野菜は近所の方が育てている無農薬のものを購入しています。松阪といえど松阪牛で知られていますが、豚肉や鶏肉もおいしいんですよ。松阪市飯高町の特産品「とっときみそ」で肉と野菜を炒めるのがお気に入りです。
- 何もない「贅沢さ」
松阪市街地から車でたったの30分というアクセスの良さにも関わらず、自然に溢れ、昔ながらの農村風景が残っているのが柚原町の魅力です。最初は、物音一つない静かさに寂しさも少し感じましたが、今ではそれが贅沢に思えます。インシヤシカが家の前にひよっりと現れることも、すっかり慣れました(笑)

味のツーリングで幾度となく訪れた柚原町の美しい情景でした。古き良き田舎の風景に吸い寄せられるように、濱畑さんは長年勤めた会社を退職し、移住を決意。「町内には室町時代のお墓が残るなど地盤が固い。さらに沢水を生活用水として用いており、地震などの緊急時にも困らない点も移住の決め手となりました」

2012年に移住。持ち前のコミュニケーション力で、積極的に

の東日本震災で被災した。各地でライフラインが寸断される中、自力で生きる大切さを痛感。「災害に遭遇しても自分で生きていける力を身につけなくてはならないと、自分の価値観が変わりました」と当時を振り返ります。

そんな中、頭をよぎったのが、趣味のツーリングで幾度となく訪れた柚原町の美しい情景でした。古き良き田舎の風景に吸い寄せられるように、濱畑さんは長年勤めた会社を退職し、移住を決意。「町内には室町時代のお墓が残るなど地盤が固い。さらに沢水を生活用水として用いており、地震などの緊急時にも困らない点も移住の決め手となりました」

「荒れ果てて放置されていた家を、自身でリフォーム。お寺をイメージし、友人のアドバイスも参考にしながらつくりました。近所の方からは「よくぞここまでよみがえらせたものだ」とお褒めの言葉をいただきました」と我が家の様子。

大震災を機に 柚原への移住を決意

そんな濱畑さんがかつては都会に住み、仕事に追われる日々を送っていました。三重県津市生まれ、鈴鹿市で育った後に上京。東京本社の大手製紙会社に勤め、滋賀県や岐阜県など各地を転々としてきました。

交通の便が発達し、買い物や飲食に何の不自由もない都市での暮らし。何か物足りなさを感じていた最中に発生したのが、2011年

活性化に向けて 地域の魅力発信に注力

移住後まもなく、三重県認定のグリーン・ツーリズムインストラクターの資格を取得。現在は休日を利用して、約1300年の歴史を持つ、修験道の霊場「伊勢山上」のガイドをライフワークとしています。

超過疎化が進む柚原町。人口80人のうち、80代以上が8割を占めています。人を呼び込むために、いろんなことにチャレンジしていきたいと夢は膨らみます。

住んで

移住者インタビュー ④

豊かな自然の中でのびのびと 子育てには家族一緒の時間を持つことが一番！

Profile ■ プロフィール



伊勢志摩 エリア
伊藤敏宏さん(42)、喜代子さん(41)、
宏太朗くん(9)、慎太朗くん(5)

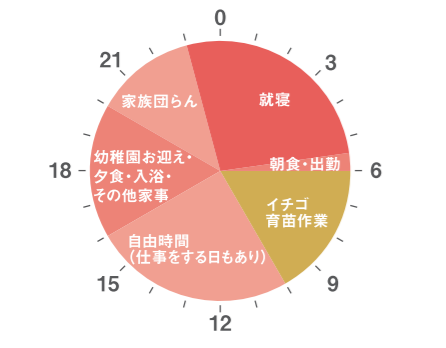
敏宏さんが三重県農業大学校で学んだ後、2009年、夫婦で志摩市に移住、県産材を使用したマイホームで、笑い声や話し声が絶えない暮らしをしています



2	1
3	
4	

- 1 1つは木の家にという長年の願いを実現したマイホームは、3年前に完成。県産のスギを床に、ヒノキを柱に、木の質感を生かして無垢のまま使用しています。2階は太い梁をむき出しにした構造。窓からは穏やかな英虞湾を望む、抜群の景色が広がります
- 2 暑い夏に最盛期を迎えるイチゴの苗づくり。苗の良し悪しが、その後の生育に大きく影響するため、管理のしやすいハウスで行うのが主流ですが、敏宏さんは露地で育てています。農地は全部で1983㎡
- 3 日差しが入り込む中庭は喜代子さんお気に入りの場所。病院勤めで夜勤もありですが、夫婦で協力し家事育児を分担しています
- 4 真っ赤に熟してから収穫。出荷と販売が同時進行なのは、おいしいイチゴを届けたいという思いから。栽培は天候に左右されますが、生物系の大学で学んだ知識と実習から、さまざまな問題を解決してきました

ある一日のスケジュール(敏宏さん)



- 出荷シーズンは毎日時間がとの開いて寝る間を惜しんで働きますが、閑散期には平均6時間睡眠が原則
- 夏の育苗期間は、午前中に作業をすませ、午後は家事や子どもとの時間を確保。繁忙期と閑散期では生活時間が大きく変動
- 夕方からは、家事育児タイム。看護師として働く喜代子さんのためにも、夫婦の協力体制が必要

MIE ここが「住んで三重」!

- 移住者にも優しく、子育て環境も充実**
浜島町はかつて過洋漁業が盛んで、人の出入りに慣れているのか、親切でいて干渉しない絶妙な距離感があります。志摩市の待機児童はゼロ、医療費も中学卒業までは無料です。自然と身近に接して成長していくのは大切なこと。海岸や砂浜で、のびのびと遊ばせています。海が近すぎて潮風が吹くから、掃除は大変ですが(笑)
- 就農サポートも親身になってくれる**
三重県農業大学校で、とても安い費用で農業を学べることを知り、1年間、イチゴの栽培を勉強。就農場所を探していたときに、親切に相談に乗ってくれたのが、志摩市浜島町漁子のイチゴ部会長です。農地も紹介していただけなので、志摩市への移住を決めました。就農については、県の農業改良普及センターや市役所の農林課にも助けてもらいました。

夫婦2馬力が鉄則 家事に境界線はなし

イチゴを育てて9年。「もっとおいしいイチゴを食べてもらいたい」と、試行錯誤は続きます。異常気象にもすぐ対応できるよう、日頃から生育状況をしっかりと把握しています。「イチゴ不作の夢に、飛び起きたことも。それでもサラリーマンはもう無理」と苦笑い。喜代子さんも「以前は仕事のことを聞いても話していませんでしたが、今はこちらが聞かなくても楽しく話してくれます」と微笑みます。

閑散期は、子どもとの時間を大切に、スケジュールを組み立てる敏宏さん。看護師として働く喜代子さんの間に家事育児の境界線はありません。子どもが寝てからは、夫婦で地酒を嗜むそう。「おいしいものが身近に

ある」と、新鮮なものが並ぶ直売所などを活用しています。

宏太朗くんが通う浜島小学校は、1クラス10〜20人と少人数。先生との距離が近く丁寧な指導を受けられると前向き。塾の代わりに親が教えられるといいと積極的に子どもへの勉強もみています。「挑戦したいことを見つけれられるようにするのが、私たちの仕事です。学力をつけさせてあげるのも親の責任」と話し、競争心を身につけるべく宏太朗くんにはさまざまな模試を受けさせています。

イチゴの苗は露地栽培。手はかかるものの、作物の力を存分に引き出す伊藤さんの手法は、子育てにも通じる通じるところがあります。「オン・オフを自己管理できるので、学校行事や遊び、勉強と、子どもとの時間が増えました」と笑みを浮かべます。

海水浴場から徒歩3分。自宅は、玄関横にシャワーを備え、まるで海の家のように。志摩市浜島町でイチゴ農家を営む伊藤敏宏さんは、妻・喜代子さんの実家近くにマイホームを築きました。9歳と5歳の子どもたちは、恵まれた自然環境の中、のびのびと、時に厳しく育てられています。

敏宏さんは大阪府高槻市出身。学生時代を若手県大船渡で過ごし、後輩である喜代子さんと結婚しました。いつか田舎で暮らしたいとの夢を抱きつつも、大阪の食品会社に就職。終電で帰宅するのが当たり前で多忙な日々を送っていました。

「激務でやりがいも感じられず、このままでは家族を幸せにできないのではないかと考えた敏宏さんの頭に浮かんだのは、学生時代のアルバイト。「椎茸栽培やホタテ養殖に従事し

ていました。忙しいながらも充実している、自分のために時間を使っているようでした。その頃を思い出し、農業で生きていこうと決意しました」

長男誕生を前に 両親の住む浜島へ

2009年、長男・宏太朗くんの誕生を前に、移住の実現に向けて動き出した伊藤さん夫妻。まずは就農フェアで見つけた三重県農業大学校へ入学し、自身の大好きなイチゴで生計を立てようと1年間しっかりと技術を学びました。農業大学校で出会った同級生7人とは、今でも年に1度集まる仲です。

移住先の決め手となったのは、喜代子さんの実家がある浜島町にもイチゴを生産する人がおり、農地を紹介してもらえたこと。また、子育てしやすい環境を考えたときに、親が近くにいれば助けてもらえることも多いと考えたからでした。

住んで

移住者インタビュー 5

まちの温かな包容力に支えられて 飲食店や古書店、イベントの企画にチャレンジ

Profile
プロフィール



東紀州
エリア

豊田 宙也さん (32)

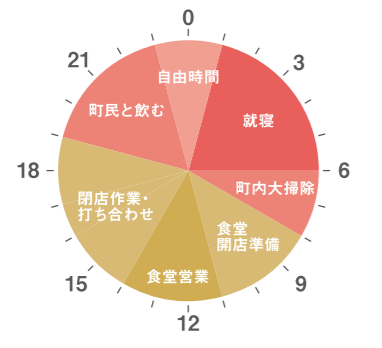
地域おこし協力隊として、飲食店オープンの任務を受け、2014年に尾鷲市に移住。協力隊の仲間や住民と地域活性化に取り組んでいます



2	
3	1
4	

- 1 児童書や推理小説、詩集など、町民や知人から譲り受けたほか、豊田さんの私物も並ぶ「トンガ坂文庫」。「トンガ」は地元で「大風呂敷を広げる」という意味。九鬼の人は書店前の石畳の坂を「トンガ坂」と呼びます
- 2 網干場は「食を通して、集いを取り戻したい」とスタートしたプロジェクト。地元有志と結成したチームで運営しており、今後はイベントスペースとしての活用も考えています
- 3 「漁村×学(ぎょそんがく)」として、人気漫画家を尾鷲に呼んで、トークイベントと「こどもマンガスクール」を開催。豊田さんは進行役を務めました
- 4 まちからは種やかで豊かな九鬼湾が見えます。網干場の仕入れに関わるようになり、九鬼漁港にもときどき顔を出すようになった豊田さん。漁港にいる仲買や漁協の関係者とも関係を築いています

ある一日のスケジュール



- … 食堂のオープンは土曜・日曜イベントが入ると打ち合わせなど1日の流れはガラリと変化
- … 豊田さんは「トンガ坂文庫」のオーナー運営体制は共同で東京から移住してきた友人や住民が店番に協力
- … 夜は地域住民と集うことが多いですが豊田さんを訪ねて東京から人が来ることも

MIE ここが「住んで三重」!

- 人に紹介したい魅力がたくさん
「外から来てもらっても、連れて行くところがない」と地元の人には気がしますが、食べ物や人、暮らしぶりなど、まちには紹介したいものがたくさんあります。九鬼には、よそ者を受け入れる包容力があるでしょう。2年目には町内会長を任せられました。祭りや風習などのしきたりを教えてもらいながら、住民との距離を縮めていきました。
- ライブやイベントも自分で!
ライブやイベントなどのために、都会へ出て行くのは交通費がかかります。それなら自分で企画をすればいいだけ。九鬼は、人口や結束力、まちのサイズがちょうどいい規模。都会より生活コストは格段に下がるので、音楽や芸術などに触れられる機会をつくれれば田舎の方が強みがあります。これまでに何度か開催していますが、来る人も良さを感じてくれています。

**新しいマッチングで
漁村暮らしの楽しさを**

豊田さんは今、網干場の新たな展開を模索しながら、自身の暮らしや活動について考えています。その一つが古書店「トンガ坂文庫」です。築80年以上の空き家を改修した店内には、約2000冊の古書がずらりと並びます。開店のきっかけは、「網干場に来た人が滞在できる場所が欲しい」と感じたこと。若い人たちが集う場所をつくりたいという思いもありました。「九鬼を無理に観光地にする必要はなく、興味を持ってくれた人と地元の人がつながるといいのかな」と、その実現に向けて取り組みます。ときには、学生と一緒に地域の課題を探り、解決策の提案を行っています。

訪れた人の興味を深め、九鬼とつながる仕組みづくりとして手がけるのが、「漁村×学」です。哲学や建築学、教育学といったテーマを掲げ、講演会などを企画して漁村の可能性を探り、人材の誘致とネットワークを生み出そうとしています。それらの企画を一度きりのイベントに終わらせないために、「尾鷲ヒト大学」の設立にも発展。「漁村に学び、漁村で学ぶ」場づくりを持続性のあるものにするため、同世代の仲間と準備をしています。

「最初は、仕事として来ている感覚でしたが、地域の人と交流するうちに、地元の人と同じ目線で物事を考えるようになりました」と豊田さん。九鬼を拠点としながら、外からの視点を広く持ち、新しい風を吹かせています。

**地域おこし協力隊として
飛び込んだ漁師町・九鬼**

波静かな入江を眼前に、瓦屋根が並ぶ集落を狭い路地がつなぐ尾鷲市九鬼町。ブリ漁が盛んな風待ち港として栄え、一時期は3000人が暮らしていました。しかし十数年前、全ての飲食店がシャッターを下ろし、人口は500人へと減少。漁業従事者の減少や高齢化がまちの経済にも響いています。

2014年、このまちに地域おこし協力隊として赴任した豊田宙也さん。任期は終了しましたが、引き続き九鬼に住んでいます。大学・大学院の専攻は哲学。「ミニマティ運営に興味を持ち始めたとき、地域おこし協力隊の募集で、「飲食店がなくなってしまうまちに新たな集いの場をつくる」企画を知ります。三重県には祖父の実家もあり、「これも何かの縁と飛び込みました。」

2014年、地元の男女20人が「外から来た人にゆつくり休んでもらえる場所をつくる」と、食を通して活性化に立ち上がりました。協力隊として仲間に加わった豊田さんは、店舗の改修から運営までをサポート。「当初、僕は魚も捌けなかったし、料理もできなかったんです。男性チームは主に店舗を改装。天井や壁を塗り替え、窓際にヒノキ板のカウンターを取りつけました」と豊田さん。海の景色を生かした、食堂「網干場」ができあがりました。

地元のお母さんたちが一時間加えた豪快な料理は、新鮮素材を生かしく、おいしく、無駄なくという食の基本が貫かれています。遠方からもたくさんの方が訪れるようになった網干場。「九鬼を元気にしたい」という思いがまちの活性化につながっています。



移住先の住まい探しをサポート!

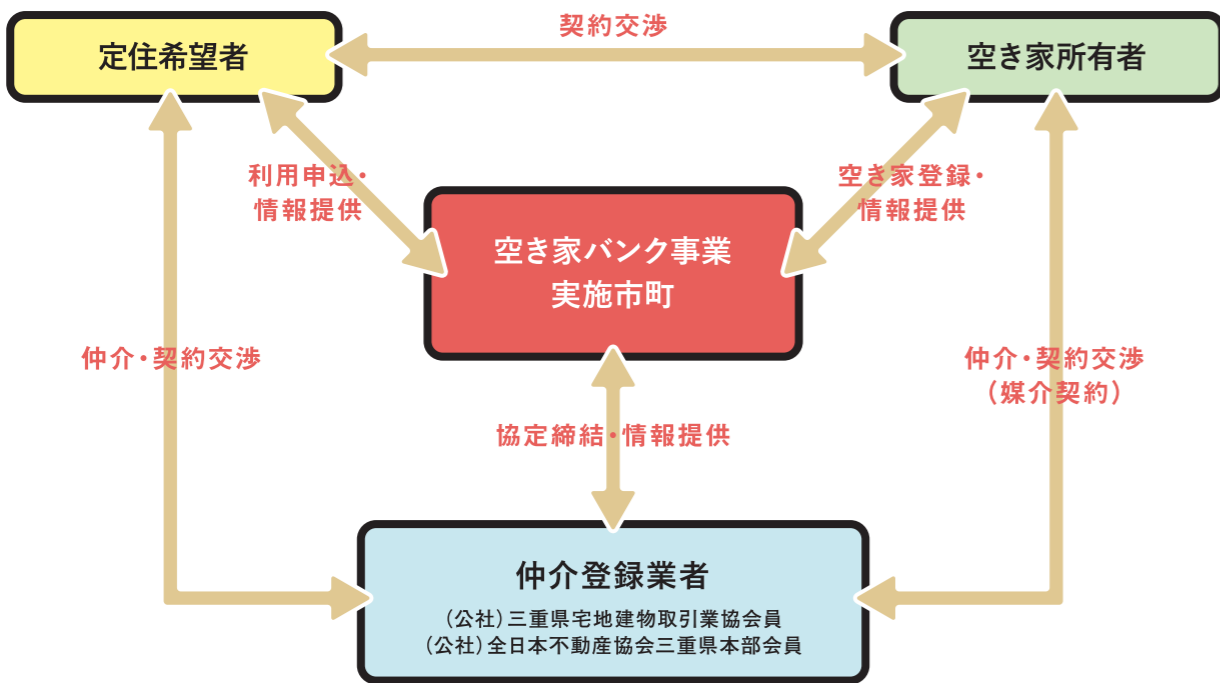
空き家バンク

空き家バンク事業実施市町

いなべ市・桑名市・四日市市・鈴鹿市・亀山市・東員町・川越町・伊賀市・名張市・津市・松阪市(飯南・飯高・嬉野の一部地域)・明和町・多気町・大台町・大紀町・伊勢市・鳥羽市・志摩市・度会町・南伊勢町・尾鷲市・熊野市・紀北町・御浜町・紀宝町

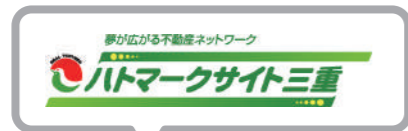
利用イメージ

利用イメージ図はあくまで一般的なものです。各市町で制度を運用していますので、詳細についてお問い合わせください。



県内の不動産情報

空き家バンク以外にも、「公益社団法人 三重県宅地建物取引業協会」や「公益社団法人 全日本不動産協会 三重県本部」のウェブサイトから物件の検索ができます。



ウェブサイトをご覧ください



ウェブサイトをご覧ください

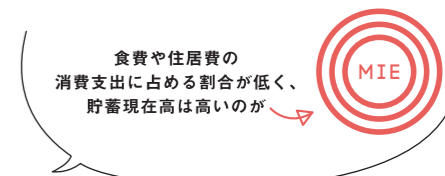


移住後の暮らしをイメージ

三重県民のおさいふ事情

収入と支出

●1世帯あたりの1か月の実収入(勤労者世帯)と消費支出(2人以上の世帯)



▶実収入

▶消費支出

三重県 **56.0万円** 全国 52.7万円 三重県 **29.7万円** 全国 28.2万円

	三重県	全国平均
食糧費割合(対消費支出)	24.0%	25.8%
住居費割合(対消費支出)	4.8%	5.9%
光熱・水道費割合(対消費支出)	6.9%	7.5%

物価

●消費者物価地域差指標(持ち家の帰属家賃を除く総合)

全国平均が100とすると……

三重県 **98.5** 東京都 104.4

ちなみに… ●百貨店・総合スーパー数(人口10万人あたり) 全国 **4位**(2.03店)

住居

●持ち家比率(対居住世帯あり住宅数)

三重県 **73.2%** 全国 **9位**
東京都 45.8%

●民間賃貸住宅の家賃(1か月3.3㎡あたり)

三重県 **3,785円** 全国 **35位**
東京都 8,620円

家賃は東京の半分以下なんです!



※出典はいずれも「統計でみる都道府県のすがた2018」



漁業

Fishery

漁業といっても千差万別。南北に長い三重県では、北部の伊勢湾と南部の熊野灘でとれる魚も漁業もまったく異なります。まずは三重県の漁業や漁業就業、移住についての情報をウェブサイトなどで集め、海で働くステップにつなげてください。

▶ 就漁へのステップと支援事業

1 就漁相談

- ◆ 就業相談窓口での相談
- ◆ 漁業に関する就業フェアでの就漁相談
 - ・東京、大阪などの主要都市で開催されるほか、三重県津市でも年1回行っています



2 体験

- ◆ 各地で行われている体験プログラムに参加



3 就漁準備

- ◆ 農林漁業後継者育成基金事業(三重県農林水産支援センター)
 - ・短期研修助成(2~7日間)
 - ・長期研修助成(2~10カ月) <住宅手当一部助成など>
- ◆ 長期研修支援制度(水産庁)、青年就業準備給付金の給付(水産庁)

4 就漁

- ◆ 沿岸漁業改善資金<経営等開始資金>(三重県)
 - ・新たに漁業経営を開始しようとする者に経営開始資金を無利子で貸付
- ◆ 漁業経営改善制度<新規就業者型>(三重県)
 - ・新たに漁業経営を開始してから3年未満の者が、漁業経営の改善計画を作成し、認定を受けることで、資金の融通や補助事業による支援を受けられる制度

漁師塾で「漁師という生き方」を学んでみませんか?

「漁師塾」は、漁協が立ち上げた就業希望者のための研修の場で、漁業や漁村のことを深く知り、漁業就業に生かすための座学や現場での技術研修など、それぞれの「漁師塾」が特色のある内容で実施しています。実施期間や募集内容などはそれぞれ異なりますので、詳しくは三重県漁業担い手対策協議会のウェブサイトをご確認ください。

三重県漁業担い手対策協議会ウェブサイト

あしたの漁師応援サイト三重

※漁師塾のことや、三重県内の漁業のこと、漁業の求人情報などを発信中

Memo

《Voice!》 おすすめは雇用型



腕一本で稼ぐ独立自営漁師に憧れる方は少なくありませんが、地域に地盤がないとなかなか難しいものです。漁師として働くには、漁村の一員になること、漁船や漁具をそろえること、ルールを守って魚をとる技術を磨くことなど、クリアすべきステップがいくつもあります。そこでおすすめなのが、「定置網漁業」や「船びき網漁業」など雇用型の漁業にまず就職し、地域になじみながら独

立自営漁師をめざすパターンです。これだと一定の収入を得ながら漁村に知り合いが増えるので、漁業について教えてもらったり、漁船や漁具のそろえ方も相談できたりして、クリアすべきステップのハードルが一気に下がります。



農業

Agriculture

最近、定年退職後に自給的な農業を始められる方や、都市生活を切り上げて就農される方など、多彩な方々が新規就農されています。三重県では、U・Iターンにより新規就農をめざす皆さんの思いを実現するための受け入れ体制づくりにも積極的に取り組んでいます。

▶ 就農へのステップと支援事業

1 就農相談

- ◆ 就業相談窓口での相談
- ◆ 県農業大学校への入校相談
- ◆ 農林漁業就業・就職フェアでの就職相談
- ◆ 無料職業紹介所での相談



2 体験

- ◆ 農林漁業研修事業(三重県農林水産支援センター)
 - ・短期研修助成(2~7日間)
 - ・長期研修(2~10カ月) <住宅手当一部助成など>
- ◆ 学生による農業体験の実施
 - ・県内の農業経営体のもとで10日以上農業体験



3 就農準備

- ◆ 農業大学校での技術・経営の実践的研修
 - ・1年課程、2年課程
- ◆ 農業次世代人材投資資金(準備型)の交付
 - ・準備型(最長2年間、最大年間150万円)
- ◆ みえ農業版MBA養成塾(2年課程)
 - ・異業種と連携できる「農業ビジネス人材」を育成
 - ・先進的な農業法人などで働きながら学ぶ
 - ・産学官が連携し、塾生の起業などをバックアップ

4 就農

- ◆ 新規就農者の重点支援
 - ・就農5年目までの新規就農者対象
- ◆ 簿記・経営分析講座の実施(経営体育成支援事業)
- ◆ 農業次世代人材投資資金の交付
 - ・経営開始型(最長5年間、年間最大150万円)
- ◆ 青年等就農資金の貸付
- ◆ 雇用型法人などの人材育成支援(法人などに対する支援)
- ◆ 雇用就農者の研修経費助成(最長2年間)
 - ・新法人設立に向けた研修経費助成(最長4年間)【農の雇用事業】

- ◆ みえの就農サポートリーダー制度
 - ・サポートリーダーのもとで技術習得に向けた実践的研修
 - ・農地や住居の確保、地域への溶け込み支援

《Voice!》 三重でつかんだ夫婦の夢!



伊賀エリア

■ 移住者プロフィール Profile

横田正和さん(45歳)、末佑さん(32歳)、長女(5歳) ※

東京から伊賀市島ヶ原へ移住 ※年齢は平成30年7月時点

将来的に、地方へ移住したいと考えていましたが、伊賀市島ヶ原に移住したのは平成25年に都内で開催された「新農業人フェア」への参加がきっかけ。移住して、住民同士が助け合い、人間らしい暮らしができるようになったと実感。子どもと接する時間が増えたことも満足しています。農業を始めたのは、東日本大震災のときに食べ物を確保する力が自分には全くないことを痛感。より安全で安心して食べられる物を自分でつくりたいと考えたから。平成25年から研修を行い、現在就農中。やがて島ヶ原や周辺地域

の魅力発信できる農家民宿を営むことが夢です。移住は大変なこともたくさんありますが、それ以上に得られることもたくさんあるので、ぜひ、三重県で新しい未来をともにつかんでみませんか!



みえの就農サポートリーダーには、栽培技術ばかりでなく、住居や地域への溶け込み方まで支援してもらいました

… 受入側からの一言



みえの就農サポートリーダー(農)百姓工房伊賀の大地 松森氏(左)

横田さんは、野菜をメインとした経営を希望していることもあり、私だけではなく、野菜を専業とする複数農家を巻き込んだバックアップ体制でサポートしました。移住希望者を島ヶ原に送ってくれ(笑)。一緒に楽しくしていこう。

お問い合わせ

新規就漁の相談窓口

- ▶(公財)三重県農林水産支援センター(担い手育成支援課) TEL.0598-48-1226
- ▶三重県漁業担い手対策協議会 TEL.059-228-6670

三重県の漁業について

- ▶三重県農林水産部(水産資源・経営課) TEL.059-224-2606

お問い合わせ

新規就農の相談窓口

- ▶三重県農林水産部(担い手支援課) TEL.059-224-2354
- ▶(公財)三重県農林水産支援センター(担い手育成支援課) TEL.0598-48-1226
- ▶三重県農業会議 TEL.059-213-2022

熊野市



うみぐらしの家

- 住所／熊野市新鹿町
- お問い合わせ先／熊野市市長公室企画第1係
- TEL／0597-89-4111(内線313)
- FAX／0597-89-5501

熊野市の海岸部での移住体験ができる住宅です。2日間から6カ月の長期滞在まで利用者のニーズに合わせた利用が可能です。徒歩5分圏内に食料品店もあり、高速道路が近いため車で20分ほどで市街地のスーパーにもすぐ行けます。地域の住民の方々と交流など熊野での一軒家暮らしを体感してください!

尾鷲市



漁村暮らしの宿「三木浦ソワイ」

- 住所／尾鷲市三木浦町
- お問い合わせ先／特定非営利活動法人おわせ暮らしサポートセンター
- TEL／0597-37-4010
- Email／owasegurashi@gmail.com

紀伊半島南部の小さな入江に位置する尾鷲市三木浦町の集落で「田舎で暮らす」という贅沢を体験いただけます。漁村暮らしの宿「三木浦ソワイ」は、週末の1泊からでもそんな田舎暮らしを体感できる1棟貸しの宿泊施設です。田舎暮らしや移住に関心のある方のご宿泊いただけます。漁村集落での日常を心ゆくまでお楽しみください。

尾鷲市



長期移住体験住宅「みやか」

- 住所／尾鷲市九鬼町
- お問い合わせ先／特定非営利活動法人おわせ暮らしサポートセンター
- TEL／0597-37-4010
- Email／owasegurashi@gmail.com

移住体験住宅「みやか」は、人口400人あまりの小さな漁村集落・尾鷲市九鬼町にあります。「田舎暮らしを体験してみたい」「尾鷲に住みたいと思っているけど、滞在しながら家探しや仕事探しをしたい」というあなたのために、尾鷲市では田舎暮らしを体験できる移住体験住宅を用意しております。

大台町



大杉谷暮らし体験施設

- 住所／多気郡大台町久豆
- お問い合わせ先／特定非営利活動法人大杉谷自然学校
- TEL／0598-78-8888
- FAX／0598-78-8889
- E-mail／info@osugidani.jp

大杉谷は大台町の最奥部にある全国有数の水質を誇る宮川沿いに広がる地区です。吉野熊野国立公園への玄関口であり、素晴らしい自然に恵まれています。また、地域には昔ながらの暮らしの知恵を教えてください。ぜひ、一度、大杉谷に遊びに来てください。

松阪市



田舎暮らしお試し住宅

- 住所／松阪市飯高町宮前
- お問い合わせ先／柚人の里協同組合
- TEL／0598-46-0208
- FAX／0598-46-0223

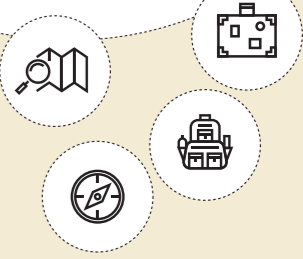
榊田川・高見山地に代表される豊かな自然を味わいながら、この地域ならではの風土・田舎文化に触れてみませんか?三重の木材を使用した木造住宅を1カ月以上3カ月以内で利用できます。道の駅飯高駅まで徒歩5分!平成30年7月、榊田川の河川敷に幼児でも安心して遊べる川遊び場が整備され、親子でも楽しめます。



住に際して、住みたいと思う地域を訪れることは大切なポイント。実際に下見をして移住への不安を解消すれば、地域への理解も深まります。移住を考えたらずば「お試し」でその後の暮らしをイメージしてみよう!

暮らし体験

下見のススメ



紀宝町



紀宝町お試し住宅

- 住所／南牟婁郡紀宝町高岡
- お問い合わせ先／紀宝町企画調整課
- TEL／0735-33-0334
- FAX／0735-32-1102

田舎への移住を検討している方のために、町内の住宅を無料(※)で貸し出し、お試し生活をさせていただき取組を行っています。申込方法など、詳しくはお問い合わせください。利用対象者は、紀宝町に移住や定住を考えている方。期間は、1泊2日～6泊7日。
※交通費・食費・消耗品にかかる費用などは利用者負担

御浜町



ウェルカムハウス御浜

- 住所／南牟婁郡御浜町大字阪本
- お問い合わせ先／御浜ローカルラボ移住・交流サポートデスク
- TEL／05979-9-1654
- E-mail／info@kokoterrace.com

「移住を迷っている」「地域の雰囲気や人柄が知りたい」あなたに。必要備品が全て整った「移住希望者用お試し住宅」で、まずは1日だけでも暮らしを体験しませんか?日本唯一の「風伝おろし(朝霧)」が美しい尾呂志地区の一軒家を貸切でご利用いただけます。期間は、1泊2日～1週間程度。1泊あたり1棟貸切で1,000円。

熊野市



まちぐらしの家

- 住所／熊野市木本町
- お問い合わせ先／熊野市市長公室企画第1係
- TEL／0597-89-4111(内線313)
- FAX／0597-89-5501

熊野市の市街地での移住体験ができる住宅です。2日間から6カ月の長期滞在まで利用者のニーズに合わせた利用が可能です。コンビニやスーパーなどに徒歩5～15分圏内で、海が見える地域や山あいの地域にも30分程度で行ける便利な住宅となっています。仕事探しのための滞在や、暮らしを体験するための滞在におすすです!

紀北町



きほくコマツバラ

- 住所／紀北町船津
- お問い合わせ先／紀北町企画課企画係
- TEL／0597-46-3113
- FAX／0597-47-5908

紀北町での暮らしを体験してみませんか?集合住宅の1部屋を改装した体験住宅を準備しました。最大3か月までの利用が可能です。車が無ければ少し不便なところですが、紀北町を体感したい場合はぜひご利用ください。体験住宅以外にも短期滞中に利用できる補助金がありますので、お問い合わせください。

鳥羽市



鳥羽なかまち体験の家

- 住所／鳥羽市鳥羽3丁目
- お問い合わせ先／鳥羽市企画財政課移住・定住係
- TEL／0599-25-1227
- FAX／0599-25-3111

商いの後ろに暮らしがあるまち・鳥羽なかまちにある体験住宅です。鳥羽市への移住を検討している方、地域の自治会活動等に参加する意思がある方を対象に、1か月から3か月まで昭和レトロな町並みと人の温かさの中での生活が体験できます。申込方法など詳しくはお問い合わせください。

鳥羽市



答志島体験の家

- 住所／鳥羽市答志町
- お問い合わせ先／鳥羽市企画財政課移住・定住係
- TEL／0599-25-1227
- FAX／0599-25-3111

伊勢湾と太平洋に面する人口2,000人の島・答志島。鳥羽佐田浜港から定期船で約20分。鳥羽市への移住を検討している方、地域の自治会活動等に参加する意思がある方を対象に、1か月から3か月まで移住体験ができます。みんな家族のような強い絆のある答志島で心豊かな島暮らしを体験してみませんか。

しっかり準備して
快適な暮らしを！

移住までの STEP 9

自分や家族のライフスタイルを大きく変える移住。憧れの暮らしを実現する幸せな移住のためには、しっかりと準備をすることが大切です。ここでは、基本となる9つのステップを紹介します。

Start!

STEP 1

移住の目的を確認しよう

なぜ移住したいのか、移住した先で何をやりたいのか、どのような暮らしをしたいのかの目的を明確にしましょう。「農業がしたい」「家族でこんな暮らしがしたい」など、目的やライフスタイルを具体的にイメージすることで、移住への道のりが見えてきます。

STEP 2

パートナーや家族に相談しよう

パートナーや家族は移住について賛成でしょうか。お互いの気持ちや、どのような暮らしをしたいのかについて、じっくりと話し合うことが大切です。定住以外にも週末移住など2地域居住という方法もあります。家族が幸せになれる生活について考えましょう。

STEP 3

優先順位をリストアップ

移住後の生活に求めるものは人それぞれです。「海の近くに住みたい」「都会に近い方が良い」「農業をしたいので支援制度がしっかりしているところが良い」など、移住後の生活をイメージする中で何を優先するのか、優先順位を3つくらいに絞って考え、それをもとに情報収集をしましょう。

STEP 4

情報収集のコツ

住んでみたい地域がある人は、その地域を訪れて移住相談窓口や民間の不動産業者を訪ねるのが早道です。そうでない人は、移住後の暮らしをイメージして、自分の希望に合った地域を探すために、まずは情報を集めましょう。「全国移住ナビ」などの移住情報サイトを活用したり、移住・交流に関する総合的な情報提供を行う「認定NPO法人ふるさと回帰支援センター」や「移住・交流情報ガーデン」などを訪れる手もあります。

STEP 5

お試し体験をしてみましょう

いざ暮らし始めると、憧れていたことと現実のギャップが必ず生じます。あらかじめそのギャップを少しでも知り、埋めていくために、希望する地域を訪れ、地域の生活を体験しておきましょう。お試し住宅や体験ツアーなどを実施している市町が多数あります(P30)。体験を通して出会う人から、たくさんの情報が得られるはずですよ。

STEP 6

空き家見学の コツ

空き家バンク制度を設ける市町も多く、賃貸で住める場合もあります。空き家は傷んでいる物件が多く、また、立地条件もさまざまです。必ず現地へ訪れ、見学をしましょう。見学の際は特に水回りを中心に家の状態をしっかりとチェックすることが大切です。また、空き家のこと以外にも、対応いただいた業者や担当者にその地域の生活情報や習慣をうかがっておきましょう。

STEP 7

仕事の探し方

東京にU・Iターンの就職相談窓口を置いている自治体が数多くあります(P29)。また、ハローワークのインターネットサービスでは、市町村単位で検索ができます。移住をめざす地域がある場合は、それらを活用するのも良いでしょう。農林水産業に関心がある方は、農林水産業就職フェアに参加したり、(公財)三重県農林水産支援センターの新規就業相談窓口(P26~28)に相談すると良いでしょう。

STEP 8

移住前の準備

移住先が決まったら、引っ越し費用や建物の補修費用、当面の生活費など移住にかかる費用を見積もります。予想外の支出も生じますので、貯蓄は余裕がある方が安心です。事前に何度か通い、その地区の区長さんにあいさつするなど、地元の人たちと少しでも交流があれば移住もスムーズに行えます。地方での暮らしにおいて車は必需品のため、車の運転免許も可能な限り取得しておきましょう。

STEP 9

あいさつ回りをしよう

無事、引っ越しが終わったら、地区の区長さんやお世話になった方に改めてあいさつにうかがいます。これからもお世話になるお礼に手土産を持参するのが普通です。また、近所の方々へのあいさつ回りも必要です。地域によっては数十軒に及ぶ場合もありますので、区長さんに相談すると良いでしょう。また、道で出会う人にも気軽にあいさつを交わしましょう。あいさつがその地域に溶け込む第一歩になります。

Finish!

移住生活への
不安に答えます！

移住 Q&A

Q1 地域に溶け込むにはどうしたらいいですか？

A1 郷に入ったら郷に従いましょう。地域はそれぞれに、風習やしきたり、伝統文化があり、それが地域の魅力となっています。そうしたものを尊重し、地域の行事に積極的に参加すれば、地域との絆は深まっています。

Q2 地方は不便ですか？マイカーは必要ですか？

A2 不便です。都会のように公共交通機関が充実しているわけではありません。公共交通機関はありますが、本数が少ないので自分の都合の良い時間にあるとは限りません。マイカーは地方での暮らしにおいて必需品となります。

Q3 ご近所付き合いはどうすればいいですか？
また田舎ではプライバシーがないと聞いたのですが……

A3 田舎では周りの人が移住者の生活状況を観察しています。田舎の人は地域で助け合って暮らしてきたので、移住者だけではなく、常に周りの人々の状況を気にかけています。また、都会からやって来た人々がどのように暮らしているのかは非常に興味があります。こうした状況をうまく活用して地域の人々に溶け込めば、楽しい田舎暮らしができます。

Q4 地域での共同作業などが多いと聞きますがどんなことがありますか？

A4 道路や河川の草刈り・清掃作業や、集会所の草刈り・清掃作業・補修作業など、都会では行政任せの作業が地方では自治会での共同作業として営まれています。

Q5 どうやって仕事を探せばいいですか？

A5 移住先に仕事があるかどうか考えると不安です。しかし、人が生活しているのですから仕事はあります。農業、林業、漁業といった第1次産業では担い手が不足しており、募集している地域は多くあります。次に地元の企業に勤めるという方法もあります。ハローワークで探したり、U・Iターンセミナーに参加したりするのも良いかもしれません。

Q6 住宅をどのように探せばよいのですか？

A6 不動産業者で探せば物件が多くあると思いますが、市町によっては移住者のために空き家を紹介する空き家バンク制度があります。詳しくは「空き家バンク」(P23)のページをご覧ください。



MIE あなたの「三重暮らし」を応援します！

市町相談窓口・三重暮らし応援制度一覧

移住相談窓口

三重で暮らすためには、現地情報の収集が大切。三重県では、地元サポート体制や地域の様子など、どんなことも気軽に相談いただける窓口を設置。あなたの「三重暮らし」を全力で応援します！



東京 ええとこやんか三重 移住相談センター

- 移住相談アドバイザー／清水ふき・中川直郁
- 就職相談アドバイザー
- 開館日時／火曜～日曜(祝日除く) 10:00～18:00
- 住所／東京都千代田区有楽町2-10-1 東京交通会館8階 認定NPO法人ふるさと回帰支援センター内
- TEL／080-9512-5093
- Email／mie@furusatokaiki.net

Facebook、Twitterやっています。



三重 地域支援課(三重県庁)

- 担当／佐川久美子、西尾桂、小山遼
- TEL／059-224-2420
- Email／chiiki@pref.mie.lg.jp

三重県移住・交流ポータルサイト

	お問い合わせ先		住む						働く				医療・子育て							
	窓口(担当者名)	TEL E-mail	田舎暮らし体験	空き家バンク	移住アドバイザー	住宅助成(取得・修繕)	移住支援助成	短期滞在住宅	農林漁業体験	就農支援	就漁支援	起業支援	求人バンク	空き店舗バンク	子ども医療費支援	交流・相談の場(子育て支援センター等)	預かり保育・一時保育	ファミリーサポートセンター	病児・病後保育	放課後児童クラブ
北勢	いなべ市	住宅課(高野)	0594-86-7809 s-takano00@city.inabe.mie.jp		○		○ ^{※1}													
	桑名市	まちづくり推進課(近藤、安川)	0594-24-1463 seisakum@city.kuwana.lg.jp		○			○		○	○				○	○	○	○	○	○
	四日市市	観光交流課(服部)	059-354-8286 kankou@city.yokkaichi.mie.jp		○		○	○		○	○				○	○	○	○	○	○
	鈴鹿市	住宅政策課(鈴枝)	059-382-7616 jutakuseisaku@city.suzuka.lg.jp		○		○			○	○				○	○	○	○	○	○
	亀山市	都市整備課住まい推進グループ(橋場、鈴木)	0595-84-5038 sumai@city.kameyama.mie.jp	○	○	○	○ ^{※1}			○	○				○	○	○	○		○
	東員町	政策課(小河、栗原、秦)	0594-86-2811 seisaku@town.toin.lg.jp		○		○ ^{※1}	○							○	○	○	○	○	○
	木曾岬町	総務政策課(諸戸)	0567-68-6100 soumu@town.kisosaki.mie.jp				○ ^{※2}			○	○	○			○	○	○	○	○	○
	菟野町	企画情報課(坂上)	059-391-1105 keyaki@town.komono.mie.jp								○				○	○	○	○	○	○
	朝日町	産業建設課(池田)	059-377-5658 sanken@town.asahi.mie.jp												○	○	○	○	○	○
川越町	企画情報課(森谷)	059-366-7112 k-kikaku@town.kawagoe.mie.jp		○		○ ^{※4}								○	○	○	○	○	○	
伊賀	伊賀市	地域づくり推進課移住交流係移住コンシェルジュ(森中、丸山、柘植、川崎)	0595-22-9680 chiikidukuri@city.iga.lg.jp	○	○	○	○	○	○	○		○	○	○	○	○	○	○	○	○
	名張市	地域活力創生室(辻岡、伊奈)	0595-63-7782 sousei@city.nabari.mie.jp	○	○	○	○	○						○	○	○	○	○	○	○
中勢	津市	都市政策課(神田、水谷)	059-229-3290 229-3177@city.tsu.lg.jp	○ ^{※3}	○	○ ^{※3}	○ ^{※1}	○	○	○				○	○	○	○	○	○	○
	松阪市	地域づくり連携課移住促進係(内田、世古)	0598-53-4349 commu.div@city.matsusaka.mie.jp	○	○		○	○					○		○	○	○	○	○	○
	明和町	防災企画課(田所)	0596-52-7112 bousai@town.mie-meiwa.lg.jp		○			○		○	○				○	○	○	○	○	○
	多気町	企画調整課(坂下)	0598-38-1124 kikaku@town.mie-taki.lg.jp	○	○	○	○ ^{※4}	○	○	○					○	○	○	○	○	○
	大台町	企画課(松本)	0598-82-3782 odai-ki@odaitown.jp	○	○	○		○	○			○	○	○	○	○	○	○	○	○
伊勢志摩	大紀町	企画調整課(出馬)	0598-86-2214 akiya@town.mie-taiki.lg.jp	○	○		○ ^{※4}	○							○	○	○	○	○	○
	伊勢市	企画調整課(古川)	0596-21-5510 kikaku-cyousei@city.ise.mie.jp		○		○	○		○	○				○	○	○	○	○	○
	鳥羽市	企画財政課移住・定住係(重見、家田、谷水)	0599-25-1227 iju-teiju@city.toba.lg.jp	○	○	○	○	○	○	○	○				○	○	○	○	○	○
	志摩市	総合政策課(大寄)	0599-44-0205 sogoseisaku@city.shima.lg.jp		○		○ ^{※1}	○	○	○	○				○	○	○	○	○	○
	玉城町	総務政策課(永井)	0596-58-8200 soumu-t@town.tamaki.lg.jp			○	○	○		○	○				○	○	○	○	○	○
東紀州	度会町	まちづくり推進課(立野)	0596-62-2423 machidukuri@town.watarai.lg.jp		○		○	○						○	○	○	○	○	○	○
	南伊勢町	まちづくり推進課(羽根)	0599-66-1366 machi@town.minamiise.lg.jp	○	○	○	○	○	○	○				○	○	○	○	○	○	○
	尾鷲市	おわせ暮らしサポートセンター(谷津、郷橋、山口、北村)	0597-37-4010 owasegurashi@gmail.com	○	○	○	○	○	○	○			○	○	○	○	○	○	○	○
東紀州	熊野市	市長公室企画第1係(濱田)	0597-89-4111(内線313) kikakuchousei-en@city.kumano.mie.jp	○	○	○	○ ^{※1}	○	○	○			○	○	○	○	○	○	○	○
	紀北町	企画課(濱田)	0597-46-3113 kikaku@town.mie-kihoku.lg.jp	○	○		○	○	○	○					○	○	○	○	○	○
	御浜町	御浜ローカルラボ移住・交流サポートデスク(前田、辻本)	05979-9-1654 info@kokoterrace.com	○	○	○	○	○	○	○					○	○	○	○	○	○
	紀宝町	企画調整課(榎本)	0735-33-0334 kikaku@town.kiho.lg.jp	○	○		○	○	○	○					○	○	○	○	○	○

令和元年12月現在 ※1…修繕のみ ※2…取得のみ ※3…美杉地区に限る ※4…空き家バンク利用者に限る